

令和4年度第1回中野区交通政策推進協議会 議事要旨

1. 日時・場所

令和4年（2022年）6月3日（金） 午前10時から正午

中野区産業振興センター（web併用）

2. 協議会の様子



3. 議事

- (1) 中野区地域公共交通計画について
- (2) 公共交通ネットワークの充実に向けた取組について
- (3) 法令に基づく協議会への移行について

【主な意見】

(1) 中野区地域公共交通計画について

- 地域公共交通計画においては、地域公共交通がもたらすクロスセクター効果に着目した目標設定をすることが望ましい。
- 地域の輸送資源総動員は、現時点で地域公共交通計画に施策として盛り込んでいる自治体は少ないため、本計画では病院の送迎バスやスクールバス等、少なくとも中野区に公共交通以外にどのような輸送資源があるのかは示していただきたい。
- 地域の輸送資源総動員については、先般策定された中野区交通政策基本方針で盛り込まれている自転車の活用もひとつの手段として有効だと思うので、既存の公共交通とそれ以外の輸送資源をうまく組み合わせて考えていただきたい。
- コロナの影響で人の移動が減っている一方でモノの移動、小口輸送が活発化している。今回の計画において、モノが動くようになった点にも着目した方が良いと思う。

- 狭い道路を賢く使うという議論が必要。非効率な輸送で道路混雑を誘発するのではなく、需要を束ねて運ぶことを考えると良い。
- 狭い道路が多い中で、どのような交通政策が考えられるのか、都市型の地域公共交通計画を検討していただきたい。
- 中野区は住宅が密集しており、救急車も通れないような道路が多い。このような地域特性を考慮して計画を策定していただきたい。
- 都市計画道路の拡幅がある場合は、それを活かした公共交通の検討があっても良いと思う。道路整備の効果が公共交通にも生きてくるという整理ができると良い。
- サービス圏域の議論は区民の生活を考えるうえで重要なポイントである。何分くらいでバス停に行ければいいのか、駅に行ければいいのかという所を議論する必要がある。

(2) 公共交通ネットワークの充実に向けた取組について

- 狭い道路に 20～30 分間隔で車両を通すことは、安全上、容易ではない。安全に関しては全てに対して優先していただきたい。
- 運賃 200 円、20～30 分間隔での車両運行について、この地域における需要や採算を見込めるのか疑問である。
- 収支率の計算の中で、車両費は運行経費に含めるのが普通だと思う。運行の継続性を検討する上では車両のコストは考慮しておいた方が良い。
- 他自治体でハイエースを使った輸送を予定しているが、運賃 200 円のため収入はマイナス見込みである。但し、既存バスへの乗り換え利用につなげて、既存バスの乗車人数アップにより収支でプラスを目指している。今回の取組も乗り継ぎ利用を前提に考えているのであれば、その辺りも考慮した収支率でも良いと思う。
- 利用者の中には、高円寺や中野、阿佐ヶ谷方面に行けることを期待している人もいるのではないだろうか。

(3) 法令に基づく協議会への移行について

- 特になし。